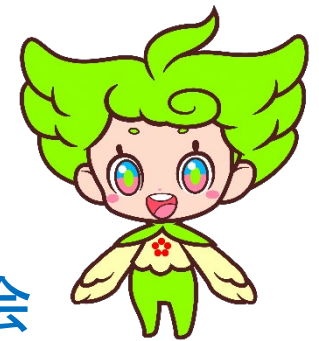


福岡県立高等学校の 不登校対応



福岡県教育委員会

本日の発表内容

1. 不登校生徒に配慮した高校入試等の取組
2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組
3. 不登校対応に係る成果と課題
4. 不登校に係る特別の教育課程の編成・実施に向けて

1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ①

○ 高校入試における不登校生徒への配慮

福岡県では中学校段階における不登校経験者の増加を受け、不登校を経験した生徒が学びを諦めることがないように様々な「学びの場」を準備している。

不登校の経験があっても、 学びの場があります

中学校の時、学校に登校したくても行くことができなかった…そんな生徒に、福岡県立高校では様々な学びの場を準備しています。

「中学校の成績がよくない」「高校卒業まで登校できるか不安」など、悩みがあっても、学ぶ意欲があれば県立高校を選択できます。

詳しい学校の情報は、福岡県HPに掲載しているのでも、自分にあった学校を、是非探してみてください。



福岡県教育委員会



学びの多様化学校

令和7年度から福岡県立小郡高校に、国の「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)」の制度を活用した「みらい創造コース」を設置します。

・不登校の生徒に寄り添った特別な教育が実施されます。

・中学校での学習のつまずきや、日ごろの悩みに、先生たちが寄り添って、卒業まで一人ひとり手厚くサポートします。

・不登校を経験した生徒が登校しやすい環境を整備します。



例えばこんな悩みを持っている生徒

・全日制高校へ進学したいが、不登校生徒に特化した配慮がないと不安だ
・様々なきめ細かい支援があれば、継続して登校できる、登校したい

通信制高校 (博多青松高校)

・主に土日に登校し、平日は自宅でレポートに取り組むので、毎日登校する必要がありません。

・県内にあるのは、福岡地区にある博多青松高校だけですが、土日の登校はそれ以外の地域にある協力校(北九州:ひびき、筑後:大牟田北、筑豊:西田川)への通学もできるので、県内どこに住んでいても無理なく通学が可能です。

・受講する講座やタイミングを自分で決めることができるので、自分のペースで卒業を目指すことができます。

例えばこんな悩みを持っている生徒

・毎日登校することは望まない
・集団での行動が苦手だ



定時制高校(昼間定時)

・県内各地区(北九州:ひびき、福岡:博多青松、筑後:大牟田北、筑豊:西田川)に昼間に通える定時制単位数制高校を設置しています。(これらの学校には夜間定時制も設置しています。)

・午前(9時頃~12時頃)、午後(13時頃~16時頃)から、授業を受ける時間帯を自分で選ぶことができます。

・自分にあった時間割を作ることができます。

※ この他にも、嘉穂総合高校大隈城山校が昼間定時制高校として設置されています。

例えばこんな悩みを持っている生徒

・朝早く起きることが苦手だが、昼間に登校したい
・興味・関心のある科目を自分のペースで学びたい

定時制高校(夜間定時)

・県内に19校の夜間定時制高校があります。

・17時半頃から21時頃まで授業が行われます。

・主に1日4時間程度の授業を受けます。

・多くの学校が、小規模な集団で、4年間で卒業を目指します。(3年間で卒業することもできます。)



例えばこんな悩みを持っている生徒

・夕方からであれば登校できる、登校したい
・長時間学校で学習することに不安がある

全日制高校

・朝登校し、午後まで授業を受け、3年間で卒業を目指す、最も多く設置されている高校です。

・中学校での長期欠席が原因で、評定値が自分の学力に見合っていない…と感じている生徒が受検しやすいよう、一般入試において中学校第3学年の評定値を合否の選考資料としない特別な入試を、全校で実施*します。

*全日課程だけでなく、定時課程でも実施します。

例えばこんな悩みを持っている生徒

・中学校の時は周囲と人間関係がうまくいかず、登校できなかったが、環境が変われば登校できる、登校したい



- ・福岡県教育委員会のホームページで左の図とともに不登校を経験した生徒が安心して進路選択ができるように県立高校の特徴等を紹介している。
- ・「例えばこんな悩みを持っている生徒」で生徒目線の例を挙げ、適切な進路選択ができるように工夫している。



1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ②

○ 各校の選抜方法等と特徴

- 一般入学者選抜の**長期欠席者特例措置**（令和7年度入学者選抜から実施）

※この特例措置は全日制・定時制を問わず一般入学者選抜を実施している学校すべてを対象としている

〔選抜方法〕 国語・数学・社会・理科・英語の学力検査 に **加えて「面接」を実施**

〔特例〕 **調査書の「各教科の学習の記録」の第3学年における各教科の評価を選考資料としない**

〔実施日〕 3月初旬（一般入試）

〔対象者〕

- ・ **高等学校入学後は継続して登校する意志がある者**
- ・ **中学校等第3学年における欠席日数が12月末日現在において70日以上である者**
（教育支援センターでの学習等により出席扱いとなっている者についても対象とする）

〔申請手続〕 調査書等の志願書類の他に**長期欠席者特例措置申請書と自己申告書**を提出

〔入学定員〕 各学校の定員に含む（県内全日制の定員120人～440人）

一般入学者選抜とは
選抜方法を国語・数学・社会・理科・英語の学力検査とし
実施日を3月初旬とする入学者選抜のこと



1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ③

○ 各校の選抜方法等と特徴

- 定時制・単位制高校（博多青松高校、ひびき高校、大牟田北高校、西田川高校）

〔選抜方法〕 前期Ⅰ期：面接及び作文

前期Ⅱ期：国語・数学・社会・理科・英語の学力検査 及び 面接

後期：面接及び作文

〔実施日〕 前期（4月入学）Ⅰ期：2月初旬 / Ⅱ期：3月初旬 ※転入学・編入学入試も同一日に実施

後期（10月入学）：9月中旬 ※転入学・編入学入試も同一日に実施

〔対象者〕 一般入学者選抜と同様（特別要件を課していない）

〔入学定員（博多青松の例）〕 前期：370人 / 後期：30人（在籍生徒数 およそ1000人）

〔特徴〕 ・ 単位制（2学期制を採用し科目によっては、半期での単位認定が可能）

・ 個別の時間割を作成し、時間割にあわせて登下校ができる

・ 修業年限を個別に決めることができる



1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ④

○ 各校の選抜方法等と特徴

● 定時制・学年制高校（県内16校）

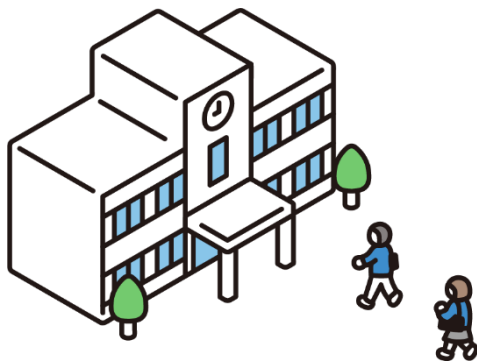
〔選抜方法〕 国語・数学・社会・理科・英語の学力検査

〔実施日〕 3月初旬（一般入試）

〔対象者〕 一般入学者選抜と同様（特別要件を課していない）

〔入学定員〕 40人（小倉南高校は120人）

- 〔特徴〕
- ・ 授業時間は17時半頃から21時頃まで／4限授業を実施
 - ・ 少人数学級
 - ・ 修業年限は原則4年（定通併修制度等で3年に短縮可能）



1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ⑤

○ 各校の選抜方法等と特徴

- 通信制高校（博多青松高校 協力校：ひびき高校・大牟田北高校・西田川高校）

〔選抜方法〕 **面接**（令和7年度入試まで面接及び作文）

〔実施日〕 前期（4月入学）：3月下旬（一般入試の合格発表後）

後期（10月入学）：9月中旬

※転入学及び編入学志願者も同一日に実施

〔対象者〕 一般入学者選抜と同様（特別要件を課していない）

〔入学定員〕 600人（在籍生徒数 およそ1500人）

〔特徴〕 ・ **単位制**（2学期制を採用し科目によっては、**半期での単位認定が可能**）

・ **①スクーリング（土曜日・日曜日に実施）／②レポート／③テスト** の3本柱で単位を修得

・ **個別の時間割を作成し、修業年限も個別に決めることができる**



1. 不登校生徒に配慮した入試等の取組 ⑥

○ 各校の選抜方法等と特徴

- 学びの多様化学校（小郡高校 みらい創造コース：公立高校としては全国初）

〔選抜方法〕 面接及び作文の結果、並びにその他の志願書類を資料として学びの多様化学校の趣旨に合致すると認める者を入学予定者とする。入学予定者が入学定員を超える場合は、国語・数学・英語の学力検査の結果を資料とし選考する。

〔実施日〕 2月初旬（県立高校の推薦入試等の試験日と同一日）

〔対象者〕 中学校等第3学年における欠席日数が年間30日間以上の不登校生徒またはそれに相当する者
※教育支援センターやフリースクール、保健室登校等での学習等により出席扱いとなっている者等を含む。

〔入学定員〕 40人

- 〔特徴〕
- ・ 全日制、普通科、**単位制**（2学期制により科目によっては、**半期での単位認定を可能にした**）
 - ・ 9時30分授業開始／45分授業で授業間の休憩は15分／**少人数学級編制**（20人クラス）
 - ・ 服装は自由（小郡高校の制服も選択可）／リラックスルームを設置
 - ・ 中学校の学び直し や ソーシャルスキルを高める学校設定科目の実施
 - ・ 希望進路や興味・関心に応じた科目選択（就職コース、進学コース）



2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組①

○ 中学校段階の学び直しを含む学校設定科目について

● 学びの多様化学校（小郡高校 未来創造コース）

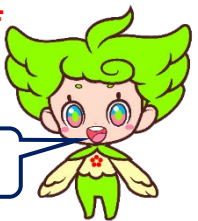
〔校時〕	（リフレクション）	9：30～	9：40	（4限）	13：20～	14：05
	（1限）	9：45～	10：30	（5限）	14：20～	15：05
	（2限）	10：45～	11：30	（掃除）	15：05～	15：20
	（3限）	11：45～	12：30	（リフレクション）	15：20～	15：30
	（昼休み）	12：30～	13：15	（6限）	15：40～	16：25

〔学校設定教科・科目〕ブリッジ国語／ブリッジ数学／ブリッジ英語 → 中学校段階の学び直し

CR（キャリアリサーチ） → 自己理解、ソーシャルスキルトレーニング
職業研究、学部研究、大学等への訪問 等

リフレクション → 1日の計画・目標設定、1日の振り返り、個別相談 等

※博多青松高校通信制課程との連携を整えた。



2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組②

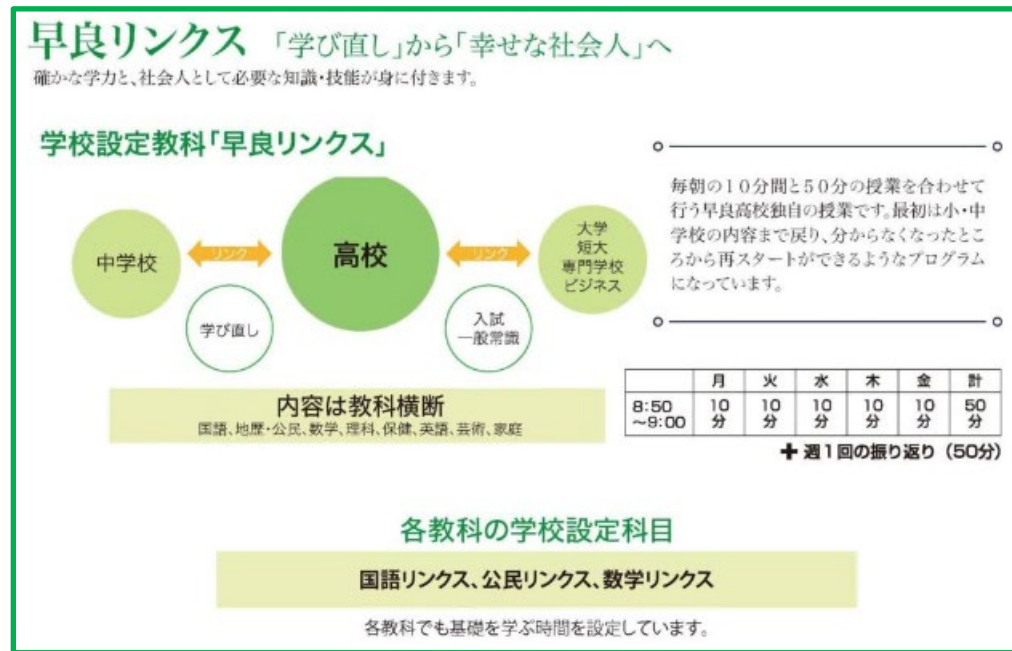
○ 中学校段階の学び直しを含む学校設定科目について

● 学び直しに関する学校設定科目を立て実施している学校について

※この学校設定科目は不登校を経験した生徒に特化したものではなく、中学校段階までの基礎学力の定着を目的として設定している。

〔実施〕 県内3校（ひびき高校、博多青松高校、早良高校）、合計9科目

〔特徴ある取組〕 早良高校（全日制高校）



学校設定教科「早良リンクス」とは

- 毎朝の10分（1週間で50分）と週1回の50分で2単位科目として運用
→朝の10分間で国・数・英の教科の学習だけでなく、新聞記事の読み取り、ディスカッション等、キャリア教育の視点での学習を実施し、週1回の50分授業で、1週間の振り返りと深化、発展のための学習を行う。

学校設定科目「国語リンクス」「数学リンクス」とは

- 国語・数学の基礎学力の定着及び充実を目的とした学校設定科目

学校設定科目「公民リンクス」とは

- 社会に出ていく上で必要な基礎知識の修得を目指した学校設定科目



2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組③

○ 不登校生徒に対する学習機会の確保

● 「遠隔授業」や「通信教育」の実施

- ・ 不登校生徒の学習機会を確保するために「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について」（令和6年2月13日付け文部科学省初等中等局長通知）を受け「遠隔授業」や「通信教育」を実施している。

令和6年度の実施状況		全日制(91校)		定時制(20校)	
		該当校	割合	該当校	割合
遠隔授業	実施校	30校	33%	2校	10%
	実施生徒数	91人		2人	
	単位認定者数	71人	78%	1人	50%
	認定単位数	1603単位		19単位	
通信教育	実施校	12校	13%	1校	5%
	実施生徒数	25人		1人	
	単位認定者数	25人	100%	1人	100%
	認定単位数	419単位		7単位	

※ 遠隔授業や通信教育については、希望する生徒がいた場合に実施することとしており、希望者がいないことから実施していない学校も一定数存在することを踏まえると、各学校において意識的に取り組まれているものと考えている。また、福岡県立高校においては、全国と比して不登校生徒の復帰率が高いところ、遠隔授業や通信教育の実施も、学習の継続性を担保する手段として、寄与しているものと考えている。



2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組④

○ スクールソーシャルワーカー（SSW）等の配置について

● SSWの配置について

- ・ 中学校時に不登校を経験している生徒や他校を中途退学した生徒等が多く入学している学校で県内のバランスを考えて、北九州地区・福岡地区・筑後地区・筑豊地区の各地区に2名ずつと「学びの多様化学校」の小郡高校を拠点校として配置している。
- ・ 拠点校以外の学校も必要に応じて対応する（依頼のあった学校に出張して対応）。

● SSWスーパーバイザーの配置について

- ・ 福岡県内4地区（北九州地区、福岡地区、筑後地区、筑豊地区）の夜間定時制を併設している学校に配置している。

京都高校（北九州地区）、筑紫中央高校（福岡地区）、大牟田北高校（筑後地区）、西田川高校（筑豊地区）

● 不登校生徒に対する訪問相談員の配置について

- ・ 学区に1校（合計13校）の拠点校に配置している。
- ※福岡県は県内を13に分ける学区制をとっている。



2. 不登校の生徒や不登校経験のある生徒に対する取組⑤

○ 時間帯の工夫による対応

- 定時制課程（夜間）の時間帯を工夫することにより不登校を経験した生徒が学びやすい環境を整える。

時間帯	これまでの授業	早く登校し早く下校する	修業年限 3年
16:30 17:15		0限目 (4限目と同じ教科を実施)	1限目
17:30 18:15	1限目	1限目	2限目
18:15 18:40	給食	給食	給食
18:40 19:25	2限目	2限目	3限目
19:30 20:15	3限目	3限目	4限目
20:20 21:05	4限目	4限目 (0限と同じ教科を実施)	5限目
始業時間を早めるメリット		0限目を希望する生徒は夕方の時間を有効に使い、夜も早めに帰宅できる。	5限授業／1日により3年間で卒業できる可能性が高まる。 (定通併修が少なくて済む)

- ・ 以前は仕事をしながら夜間定時制に通う生徒が多かったが、現在は仕事をしている生徒は減少し、中学校時に不登校を経験した生徒が増加している。
- ・ 朝起きることが苦手ということで夜間定時制を選択したが、授業の終わりが遅いのもう少し早く始めて欲しい、修業年限が3年になるようにして欲しいという声が生徒から挙がっている。

※この制度はできるだけ多くの学校に取り入れて欲しいが、ほとんどの学校が教室を全日制と共有しているため難しい。



3. 不登校対応に係る成果と課題

○ 取組の成果

・ 多様な入試選抜の実施や、学びの多様化学校を含む学びの場の整備により、**不登校生徒の高校入学後のミスマッチの解消**に繋がっているほか、高校段階においても、SC・SSWや訪問相談員の適正配置による丁寧な支援や、遠隔授業等の充実を図ることで、**不登校生徒の復帰率が増加傾向**にあるなど、不登校対応に係る一定の成果が得られていると考えている。

不登校生徒数及び復帰率（福岡県立高校）

	R4	R5	R6
不登校生徒数	1,341人	1,998人	2,072人
不登校生徒の復帰率	57.2%	69.8%	71.7%
不登校生徒の復帰率 (全国公立高校)	45.3%	48.5%	49.3%

○ 課題

〔入試〕 学びの多様化学校を含めた**多様な学びの場の整備**、**多様な入試選抜の更なる充実**、また、**それらの趣旨・特徴を生徒や保護者に適切に周知**していくことが必要。加えて、特例措置により入学した生徒の状況把握・分析を進めることで、適切な支援に繋げる検討が必要。

〔取組〕 **生徒情報の円滑な引き継ぎ**など、**中高の連携・円滑な接続に向けた方策**の検討が必要。



4. 不登校に係る特別の教育課程の編成・実施に向けて

〔不登校児童生徒に係る特別の教育課程の編成・実施に向けて必要な視点〕

● 中学校から高等学校への情報の引き継ぎ

- ・ 欠席日数等の客観的情報だけでなく、不登校生徒が特別の教育課程で実施した取組や学んだ内容、教師の評価等といった、生徒に関する「生の情報」について、高等学校側へ適切に引き継がれるようにすること。
- ・ 引き継ぎにあたっては、中学校、高等学校双方の視点から、教師に過度な負担がかかることのないよう、配慮する必要があること。

● 高校入試での活用

- ・ 入試における長期欠席者特例措置など多様な入試選抜の方法について、各都道府県や各高等学校での検討を進めるにあたっては、特別の教育課程の実施内容について調査書にどのように記入するかなど、一定の考え方の整理が必要であること。

